

ミエール 美術科学習指導計画（5 時間扱い）

単元名 「作品から感じて」—名画との対話を通して見方・感じ方を広げよう—（鑑賞）

1・単元の目標

知識・技能

美術作品を鑑賞する活動を通して、造形的なよさや美しさ、作者の心情や表現の意図・工夫を感じ取り、時代背景や目的との関わりを踏まえながら、美術作品の見方や感じ方を広げることができる。

思考・判断・表現

作品の造形的な特徴や表現方法、時代背景、生活や社会との関わりについて考え、作品の価値や美術が生活を豊かにする働きについて、自分の考えを深めながら表現することができる。

主体的に学習に取り組む態度

様々な作品に主体的に向き合い、多様な見方や感じ方を尊重しながら、美術の創造活動や文化に親しみ、豊かな感性を育もうとしている。

2・単元計画(5 時間)

時	本時の目標	学習活動(何を・どのように学ぶか)	評価規準	評価観点
1	名画を鑑賞し、自分なりの感じ方をもつ。	フェルメール、ゴッホ、モネ、ルノワールなどの作品を見比べ、「好きな作品」「気になる作品」を選び、その理由を交流する。第一印象だけでなく、色彩や構図、光の表現などにも着目して鑑賞する。	作品の造形的な特徴や美しさに気付き、自分の感じたことを言葉で表現している。	②思考・判断・表現
2	作者の表現の意図や時代背景について理解する。	印象派誕生の背景を学び、写真(カメラ)の発明による写実表現の変化や、新しい表現を求めた画家たちの挑戦について考える。フェルメールと印象派を比較しながら、時代による表現の違いを読み取る。	作者の心情や時代背景、表現の工夫を関連付けて理解している。	①知識・技能
3	印象派独自の表現方法を理解する。	モネやルノワールの作品を鑑賞し、「筆触分割」や光・色彩の表現方法を学ぶ。作品を拡大して筆遣いを観察し、なぜその表現方法が生まれたのかを考察する。	表現技法や造形的な特徴を捉え、その効果について考えている。	②思考・判断・表現
4	美術が生活や社会に与える影響について考える。	現代の広告、写真、デザインなどを取り上げ、美術作品との共通点や違いを比較する。作品が人々の暮らしや文化、価値観にどのような影響を与えているかを話し合う。	美術の働きや文化的価値について、自分の考えを深めている。	②思考・判断・表現
5	鑑賞を通して自分の見方や感じ方の変化をまとめる。	単元を通して最も印象に残った作品の一つを選び、「以前の自分なら気付かなかったこと」「作品の魅力」「作者が伝えたかったこと」をレポートや発表にまとめる。	他者の意見も参考にしながら、自分の見方や感じ方の広がりを振り返ろうとしている。	③主体的に学習に取り組む態度

3・単元の評価規準

観点	評価規準
知識・技能	作者の表現の意図や工夫、造形的な特徴、時代背景との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	作品のよさや美しさ、表現の工夫、生活や社会との関わりについて考え、自分の見方や感じ方を深めている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な作品を主体的に鑑賞し、多様な価値観を受け入れながら、自らの見方や感じ方を広げようとしている。

4・本単元で扱う主な作品例

- フェルメール「牛乳を注ぐ女」「真珠の耳飾りの少女」
- モネ「印象・日の出」「睡蓮」
- ルノワール「ムーランド・ドラ・ギャレット」
- ゴッホ「ひまわり」「星月夜」